

短期大学における初年次教育の現状と課題

松 崎 陽 子

はじめに

短期大学は修業期間が2年間と短い事から、初年次教育が非常に重要である事は理解しながらも、それを明確な形でカリキュラムに取り込む際にはさまざまな障壁があるのではないかと思われる。しかしながら、短期大学の卒業者が4年制大学の卒業者に十二分に比肩し得る人材として社会に巣立つためには、2年間で取得する単位の中で効率的に基礎的スキルを身につけ、人格・教養の面でも一定のレベルに達していなくてはならない。そのために初年次教育はかなり意図的にカリキュラムに取り入れて行く必要があると思われる。「鉄は熱いうちに打て」の言葉通り、入学初期における教育のナビゲーション次第で、学生は効率的に学ぶ道筋を見つけ自己実現の一步を踏み出せるからである。

短期大学における初年次教育についての先行研究が見当たらなかったため、全国の短期大学ではどのような取組みを行っているのかをヒアリングする事にした。本年は、関東地方の短期大学6校を訪問し、主に教科主任の教員に取材した。対象とした短期大学は、本学と同程度の規模である事、経営・実務系の学部、学科である事を主に、併設の4年制大学がある事なども考慮して選定した。また、学年全体の人数は多くても当該学科の定員が本学と同程度の人数である学校や、経営・ビジネス系ではない短期大学の場合に初年次教育の内容に差が生じるかどうかを（元々の教養科目などに初年次教育に振り向けやすい科目がある可能性などを考慮した）比較するために一部、保育・教育系、キャリア系の学部・学科も選んである。（ヒアリング実施期間：2014年7月22日～8月26日）

亜細亜大学短期大学

【所在地】180-8629 東京都武蔵野市境5丁目24-10

【設立】昭和25年

【学部・学科（入学定員）】経営学科（130人）、現代タウンビジネス学科（70人）

※併設の4年制大学あり

○初年次教育：1年次の教養科目の中の選択科目である教養基礎演習、文章表現という2つの科目が、内容的には初年次教育を担っていると言える。2年間一貫の少人数のゼミ形式で、共通のテキストなどは使わずに、各教員の自主性に任せきめ細かく対応している。現代タウンビジネス学科では、1年次必修の「キャリアデザインⅠ」の中で、インターンシップを実施している。この就業教育も初年次教育の一環と言える。

○**必修科目**：卒業要件は 16 単位。うち 1 年次で 3 科目から 10 単位、2 年次で 2 科目から 6 単位となっている。卒業要件は 62 単位。必修科目の単位は少なく抑えている。必修を多く設定してしまうと 2 年間で取得できずに卒業が危ぶまれる可能性もあるため。

経営学科の必修は専門科目のみで、1 年生が「経営学」、「専門演習Ⅰ」、「簿記」の 3 科目、2 年生が同じく専門科目の「会計学」、「専門演習Ⅱ」の 2 科目となっている。他は、専門科目、教養科目共に選択科目と選択必修科目からなる。

現代タウンビジネス学科の必修科目は経営学科よりも多く、専門科目の 1 年次には「タウンビジネス入門」、「コンシェルジュサービス論」、「マーケティング論」、「情報マネジメント論」、「ビジネスマナー」、「キャリアデザインⅠ」の 6 科目と教養科目の「日本語表現Ⅰ、Ⅱ」、「英語Ⅰ、Ⅱ」、「基礎演習」の 3 科目で、計 9 科目にも及ぶ。2 年次の必修科目は専門科目の「専門演習」のみで、1 年次で必修科目のほとんどを履修することになる。

○**資格**：正規授業と課外講座の二本立てで資格取得を支援している。両学科ともに取得可能な資格は司書。経営学科では、日商簿記検定 3 級、販売士検定 3 級、情報検定などの資格取得を推奨。

○**キャリア科目**：コース共通で、専門科目と教養科目の中から「キャリアチャレンジ科目」を選定し、独自の単位認定を行っている（表参照）。とくに「学外専門実習Ⅰ」は日商簿記検定講座を受講し、その取組みをレポートにして提出することで単位を付与するというユニークなもの。「学外専門実習Ⅱ」は、会社説明会参加、OB・OG 訪問などの就職活動報告をレポート提出すると単位が取得できる。

キャリアチャレンジ科目	
基礎編	実践編
<就職活動を始める前に> 経営特講（ワークデザイン） ビジネスマナー ビジネスリテラシー <基礎学力の強化> 教養基礎演習 文章表現 英語Ⅰ、Ⅱ	<資格取得にチャレンジ> 学外専門実習Ⅰ 秘書実務 <就職活動にチャレンジ> 学外専門実習Ⅱ 経済時事

○**進路**：現代タウンビジネス学科は、ファッションビジネス、エンターテインメントビジネス、ウエルネスビジネスと 3 つのコースに細分化されて専門的な知識を身に着けるため、それぞれ希望の業界への就職を果たしている、経営学科は、就職以外にも亜細亜大学各学部への 3 年次編入制度があり、平成 26 年は経営学部 45 名、経済学部 12 名、法学部 14 名、国際関係学部 2 名計 73 名が合格している。

鎌倉女子大学

【所在地】247-8512 神奈川県鎌倉市大船6丁目1-3

【設立】昭和25年

【学部・学科（入学定員）】初等教育学科（200人）

※併設の4年制大学あり

○初年次教育：1年生に対して、4年制大学と同じ「スタートアップセミナー」（読み、書きなどの基礎的な力を養う）を実施しようとしたが、導入が難しく科目として特別に立てずに各教科の教員に依頼し、重点的なサポート（たとえば書く力に対応させたレポート課題などに力点を置いた授業）を行っている。初年次教育に対して科目を割こうとすると、キップルールによって卒業必要単位の取得に影響してしまう。クラスアドバイザー制度を取っており、個々の学生の状況を把握するようにしている。専攻が初等教育と将来の目的が明確でシンプルなために、4月のオリエンテーションの際に付属幼稚園の見学実習を行っている。単に子ども達が可愛いというのでは務まらない職業である事を認識してもらう。

○インターンシップ：2年次に実習（保育園と居住型施設で11日×3セット）があるので、インターンシップは無いが、夏休みにボランティア体験をすることを奨励している（義務ではなく単位は出ないが報告書を提出）。2～3割の学生が実践している。個々の学生に対して、実習の事前事後のサポート（教科内）をしている。小さい頃から目指している学生が多いので、入学前から学びへのモチベーションが高い。

○必修科目：19単位（国語、算数、図工。体育、外国語、情報など）。卒業必要単位は63単位だが、免許を取ろうとすれば100単位を超える。短大は時間的な余裕が無いので必修を増やさずに、興味・関心のあるものを選択させるようにしている。

○資格：小学校教諭二種免許、幼稚園教諭二種免許、保育士、児童厚生2級指導員、レクリエーション・インストラクター、秘書士（約1割28名が取得）。資格取得を必修にはしていない。プラスαとして取りなさいと言っている。資格を取らずに卒業して行く学生もいる。

○進路：4年生大学に編入希望者が例年1割ほど。児童学科の枠は若干名で、5名くらい。教育学科の枠は20名で10名ほどが進学している。保育園、幼稚園の求人が多く、小学校は免許を取得しても採用実績は少なく、2年間に1人程度である。

城西短期大学

【所在地】350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1（坂戸キャンパス）

【設立】昭和58年

【学部・学科（入学定員）】ビジネス総合学科（120人）

※併設の4年制大学あり

○初年次教育：原則としてゼミナールで行っている。1年生の基礎ゼミナールは通年で、各教員にまかせている。とくに初年次教育としての科目は設定していないが、あらゆる科目で意識して行うようにしている。

○必修科目：30単位（卒業必要単位68単位）。キャリア科目、英会話、TOEICが必修となっている。他にはデザイン演習（PC）、書道（かつては茶道、華道もあった）。キャリア演習では、体験型授業としてフラワーデザイン・織物・染色などの科目があり、店を営んでいるプロを講師に、染色（草木染）から織物（実際に染色した糸を使用）などの制作から、店舗経営の知識までトータルに学んでいる。

○資格：パソコン、色彩検定、医療事務、秘書実務検定、販売士、日商簿記など。エクステンションセンターと授業とが半々。資格取得を正課にはしていない。専門学校であればその資格を専門とする講師がいるが、大学教員は本来、資格を取らせる目的で採用されていないため。進路別担任コーチ制がある。

○インターンシップ：企業実習という形で行っていた。ビジネスインターンシップ、販売インターンシップ、福祉インターンシップの4種類があり、坂戸市役所、東証アローズ、都内スポーツセンター、ホテルインターンシップなどで就業体験をしている。15名くらいの学生が参加している。参加者は減少傾向にあるが実習先の企業の開拓（学生が行きたいと希望するような企業）により、参加者数は好転するケースもある。

○進路：就職のほか、城西大学、城西国際大学の両方に編入できる制度があり、平成24年12名、平成25年9名が進学している。

○その他：PCは100台設置し、学生には50メガのUSBを貸与。図書館のPCは夜9時まで使用できるようになっており、PC環境は充実している。

○課題：1年生の検定関連の授業が土曜日に入ってしまう、学生にとってはハードワークになっている。地方の短大は企業などとの関係も強いと思うが、首都圏の短大は厳しい状況にある。とくにビジネス系の短大は苦戦を強いられている。大学らしさを求めて短大に進学する学生もいると思う。2年間で学生を大人にして、社会とは何かを教えて意識を前向きに変えるのは難しい。

高崎商科大学短期大学部

【所在地】370-1214 群馬県高崎市根小屋町741

【設立】昭和63年

【学部・学科（入学定員）】現代ビジネス学科（120人）

※併設の4年制大学あり

○初年次教育：ゼミナール（教養演習）4つのコースごとにクラス分けして、1つのコマを2名で担当するペア担任制を取り、スタディスキルから時事問題、就職関連の筆記試験対

策まで1年次で行う。社会人基礎力演習では職業意識を高めるため、業者テスト（アセスメント）を行ったり、内定者の2年生によるパネルディスカッションなども行っている。コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱという科目では、コンサルタントの講師からプレゼンテーションのスキルを学ぶ。ゼミナールでは、「上毛かるた」の作成、業界研究、新聞記事の要約など、より具体的な学びをさせている。

○**必修科目**：必修25単位（基礎科目は4分野から10単位以上、演習分野で7単位以上、共通必修科目から8単位以上）。1年次の必修は、ビジネスのための基礎数学、コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱ、社会人基礎力演習、教養演習Ⅰ、Ⅱ、マナーとホスピタリティA、B、経営概論Ⅰ、Ⅱ、キャリアガイダンスなどである。卒業要件は65単位以上。1年次で履修できるのは42単位まで。

○**資格**：「資格・検定チャレンジカルテ」を作成、月一回のチェックを行うが、正課の教養科目は資格取得とリンクさせていない。日商簿記検定、国内旅行業務取扱管理者、医療事務管理士、デンタルアテンダント、ドクターズオフィスワークアシスタント検定試験、フードコーディネータースポーツプログラマーなど。「商大資格の社」を開講。提携先のTAC（株）の講座を受講できるが単位認定は行わない。主にWEB通信講座であるが、教室式の講座もある。内容は、公認会計士、中小企業診断士、通関士、ITパスポート、FP3級、FP2級、証券外務員Ⅱ種、TOEIC、秘書検定2級（以上WEB講座）。情報技術者、国内旅行取扱管理者、総合旅行取扱管理者、Excel表計算。1万円～30万円までの資格奨励金制度もある。

○**インターンシップ**：120名中90名以上が参加。長期インターンシップ（2～3か月）23名、短期インターンシップ（2～3週間）69名。長期インターンシップはホテル・観光・ブライダルコースのみが履修可能であり、帝国ホテルや星野リゾート等で就業体験をする。この他、夏休みの集中講義で地元の結婚式場とタイアップした「ブライダルプロデュース」では、模擬結婚式・披露宴を行う。「デンタルアテンダント」では、歯科医院で歯科助手の仕事（歯型を取る等）の実習もある。

○**アクティブラーニング**：「地域とビジネス」という科目では、グループで地元企業にインタビューをしたり、レストランの利用客にアンケートを取る、市の観光課からの委託で「くるりんバス」の観光ルートを作成するなど多岐にわたる学びを実践している。

○**進路**：就職内定率は94%で地元密着型。4年制に編入する学生は4～5名。4年制大学の学部と親和性が高い簿記・会計コースからの編入が多いが、ホテルコースから編入する学生もいる。

東京経営短期大学

【所在地】272-0001 千葉県市川市二俣 625-1

【設立】平成4年

【学部・学科（入学定員）】経営総合学科（150人）

○入学前教育：内定者に対して12月から課題作文またはレポート、漢検3級レベルの漢字プリント、英単語の基本3点セットの課題を計3回課し、併せて3月には建学の精神についての感想文を課し、入学式に提出させる。また、2月～3月にスクーリングを行い、6講座（1回60分）を受講させる。スクーリングは、学力だけでなく、他の入学予定者とのコミュニケーション機会を与える目的もある。

○初年次教育：1年前期に大手テーマパークでの接客プログラム学ぶ。終了後は、ゼミナールにおいて全員がスピーチを行い同接客プログラムの意図を理解させている。後期は就職を視野に入れた「職業選択」の授業科目を開講し、自己分析などを行う。2月、3月には集中講義「職業選択実務」を開講し、より実践的な就職活動の指導をしている。ゼミナールは統一プログラム。同一テキストを使い、「短大生の一般常識」を用いて10分間の小テストを毎回行っている。1年次では特にコミュニケーション能力を養う事に主眼を置いている。10月の学園祭でゼミごとに出店し、損益分岐点や利益、配当について競う試みも、一種の初年次教育の一端であると考えられる。

○必修科目：各コース（4種類のコースがある）共通必修14単位（10科目）で、うち10単位は1年次で取得する。内容は国語、国語表現、経営学入門、ビジネスマナー、コンピュータⅠ、Ⅱ、ゼミナール。選択必修は4つに分かれており、選択必修Ⅰ（4科目から2単位以上）、選択必修Ⅱ（5科目から2単位以上）、選択必修Ⅲ（5科目から6単位、選択必修Ⅳ（7科目から2単位）。各コースの選択必修は18単位以上。他のコースの単位も10単位まで卒業要件単位に算入できる。卒業要件合計単位は66単位以上。

○資格：簿記検定、秘書実務技能検定、メディカルクラーク、ドクターズクラーク、販売士など。簿記演習で上位級の合格を目指す。毎年、全経簿記上級、秘書実務検定準1級の合格者が出ている。

○インターンシップは自由選択の科目で、1年後期～2年前後期で履修可能。

○進路：指定校推薦枠（28大学43学部）があり、3年次編入が可能。

新島学園短期大学

【所在地】370-0068 群馬県高崎市昭和町53

【設立】昭和58年（国際文化学科）。平成16年に改組転換。

（※以下は、特に明示のある場合を除き、すべてキャリアデザイン学科についての説明である）

【学部・学科（定員）】キャリアデザイン学科（130人）、コミュニティ子ども学科（50人）

○初年次教育：原則としてゼミナールで行っているのが現状。明確に初年次教育として位置付けているものは無い。学生は半数程度が自分自身では何をしていいかわからない状態で入学してくるので、ゼミ担当の教員が1人1人指導しながら履修科目の組み立てをして

いる。

「基礎演習Ⅰ」（1年生前期）として、読み、書き、聴く、話すという基礎的な能力を身に付けさせるようにしているが、統一のフォーマットは無く、各教員に任せられている。

○必修科目：20単位（卒業必要単位68単位）キリスト教入門、キャリアデザイン論、総合英語、情報処理、日本語文章理解、基礎数学、基礎演習（1年生ゼミ）、卒業研究（2年生ゼミ）などの教養科目と演習科目。

ビューフェスタイルで8グループに分けた144の科目から履修科目を選択することが出来る。※キャリアデザイン論は1年前期配当科目。担当は専任教員。2年生後期配当の「キャリアと人生」は、週1回外部講師によって行われている。

○資格：最低でも、1年に1つずつの資格取得を勧めている。なお、卒業要件として学内作成のPC試験並びに英語試験の合格、漢検3級以上取得を課している。（コミュニティ子ども学科では、保育士、幼稚園教諭二種免許）

○インターンシップ：期間は1週間。希望業種での就労体験ができる。履修単位となっている。学科の3分の1、約40人ほどが参加している。必ずしも就職に結びついているとは言えないが、中には「この学生が欲しい」と企業からの申し出があるケースもある。

○進路：4年制大学への編入がしやすい点を強調して来た。1学年7名の同志社大学推薦枠がある。入学者の30%~40%弱（30~40名）が地元・近隣の国公立大学や関東を中心とした私立大学などへ進学する。通信制の大学への進学者もいる。2年間で取得した一般教養科目の単位が、編入学に際して生かせる。年間5名くらいは公務員になる。

考 察

6校の取材を終えて、短期大学そのものの課題として、「あまりにも時間が足りない」という共通の障壁があった。さらに、教員数の不足も目立ち、毎年教員数が逡減しているにも関わらず何年間も補充されていないという学校もあった。担当する教科と専門を伺うと、IT関連の理系の教員や英語を専門とする教員がキャリア教育を担当するなど、必ずしも一致していないケースもあった。もちろん、昨今の入学者数の激減、学校法人の経営の問題なども複雑に絡んでくる問題であるが、人材のミスマッチが生じているのではないかと感じた。このような状況下で、いずれの短期大学でも初年次教育に割く時間も人員も不足しているというのが現状であり、最大の課題であった。

初年次教育の必要性、重要性の認識はあるものの、その内容に関しては試行錯誤している段階であるケースがほとんどであり、ヒアリングを行う前に立てた仮説通りの結果となった。現状行われている初年次教育としては、多くの学校で1年次の前期のゼミナールが挙げられた。この場合統一テキストを利用している学校よりも、各教員に任せているというケースが多かった。しかし、この方法では教員の個人差（専攻、資質、到達レベルに対する考え方など）が大きく影響し、したがって2年次に進んだ段階で学生間に格差が生

じてしまうというデメリットが存在することは明らかである。しかし、それを自覚しながらも、現状では次善の策として実施されているようであった。テキストに関しても、明確に初年次教育のためのものというよりは、就職活動を視野に入れた一般常識を身に着けるためのものを使っているケースが見受けられた。入学から就職活動までのスパンが短いことから、初年次教育＝就職のための狭義のキャリア教育という形を取らざるを得ない現状は理解できる。しかし、残念ながら、それは初年次教育の本来の在り方とは言えないこともまた事実である。

次に、特徴的であったのが資格取得の奨励である。経営・実務系の短期大学を中心に取材したため、簿記検定や秘書実務検定などの資格取得を奨励している学校が多かった。2年間の間に、卒業必要単位取得以外に検定・資格取得を目指すとなると学生の負担が増えることは必至である。これに対しても、さまざまな工夫をしている学校が多かったが、学生に将来の到達点を選ばせ、その職種に就くために効果的である資格や検定を見極めやすくするために、学科の中のコースを細分化しているところもあり、学生本位の考え方であると感じた。入学を希望する高校生にわかりやすいコース名にするなどの工夫も、短期大学に期待される役割を考慮すると、一種の出口配慮（卒業生が地域のどんな企業で人材として求められるのかを明らかにする）であると思われる。

2年間という短い修業期間のうちに、資格取得や検定受験を奨励すれば、当然学生は多忙を極めることになり、正課に組み入れれば単位の関係から教養科目や初年次教育科目にしわ寄せが来てしまう。教員もその資格に関して専門知識を持たないで担当することになれば、必然的に授業の効率・質の点で決してベストな方法であるとは言えない。こうした見地からも、初年次教育の明確な位置づけや実施が後手後手に回って行かざるを得ないのが現状である。また、とくに強く感じられたのは短期大学と地域連携の重要性である。どの学校でもこれを意識しており、初年次教育の授業内容において学生に地域を意識し、地域と繋がる活動をさせて行くことを主眼としている学校が少なくなかった。たとえば、高崎商科大学短期大学では「上毛かるた」などのその土地固有の文化を素材にして授業を組み立てたり、バスの路線を学生が考えるというような地域に密着して住民を利する活動を行っている。これらは素晴らしい地域貢献であり、卒業後に自分たちも地域社会の一員として社会に役立つ人間になるのだというモチベーションアップにも繋がって行くと思われる。

総じて、初年次教育はそれ自体独立して導入することは難しく、1年次のゼミナール、キャリア教育、資格、インターンシップ、地域連携の5つの要素をベースにして学校ごとの特色を考慮しながら、教育の中身を考え、カリキュラムポリシーに反映させて行くことが急務であることを痛感した。